

番号	科	名称	天気	20年度観察数												観察月数	観察数合計	
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
				15	13	10	8	12	9	14	11	9	13	10	10			
1	カモ	カルガモ															0	0
2	ハト	キジハト		1	1	1	1	1	3	1		4	2	2	6	11	23	
3	カッコウ	ツツトリ														0	0	
4	トビ	トビ	VU										1			1	1	
5	タカ	ツミ	CR													0	0	
6	タカ	ハイタカ			1											1	1	
7	キツツキ	コゲラ		2		4	1			4	2	3		4	4	8	24	
8	キツツキ	アカゲラ	NT													0	0	
9	キツツキ	アオゲラ	NT	1	1			1								3	3	
10	ハヤブサ	チョウゲンボウ												1	1	1	1	
11	ハヤブサ	ハヤブサ	VU													0	0	
12	モズ	モズ	VU	1									1		2	3	4	
13	カラス	カケス														0	0	
14	カラス	オナガ		8	2				7	2		31				5	50	
15	カラス	ハンボトガラス		3	3	2	2	2	1	2	2	1	2	3	6	12	29	
16	カラス	ハシトガラス		4	7	6	8	4	5	4	7	10	3	5	5	12	68	
17	シジュウカラ	ヤマガラ						2	1					1	3	4	4	
18	シジュウカラ	シジュウカラ		10	11	15	9	4	9	22	8	10	9	20	14	12	141	
19	ツバメ	ツバメ		1		3	3									3	7	
20	ツバメ	イワツバメ														0	0	
21	ヒヨドリ	ヒヨドリ		34	9	11	10	2	11	18	19	22	17	10	18	12	181	
22	ウグイス	ウグイス	NT							1	2	3	3	5	5	6	19	
23	エナガ	エナガ	NT	1	3				9	12		3	3	2	7	8	40	
24	メジロ	メジロ		2	2	1	10		8	14	5	15	17	15	6	11	95	
25	ムクドリ	ムクドリ		4		1	1									3	6	
26	ヒタキ	シロハラ										1	2	1	1	4	5	
27	ヒタキ	ツグミ													2	1	2	
28	ヒタキ	ルリヒタキ														0	0	
29	ヒタキ	ジョウビタキ														0	0	
30	ヒタキ	コサメビタキ	VU						1							1	1	
31	スズメ	スズメ			2		2				3		2			4	9	
32	セキレイ	ハクセキレイ									2	1				2	3	
33	アトリ	アトリ														0	0	
34	アトリ	カララヒワ														0	0	
35	アトリ	シメ		3								2				2	5	
36	アトリ	イカル	NT													0	0	
37	ホオジロ	アオジ		3												1	3	
観察種数 月 / 年				15	11	9	10	7	10	10	9	13	12	11	13	25		



月	20年度 コメント
4	新緑の中、あちこちでシジュウカラが囀っていた。冬鳥のシメや、アオジがまだ居残っていた。渡り途中なのかヒヨドリが多く見られた。
5	シジュウカラが囀り、ヒヨドリが追いかけあう姿が見られた。スズメがイヌザクラに来ていた。ガビチョウが小学校裏の里山スペースで餌取をしていた。
6	木の葉が茂り、鳥の姿が見えにくくなっている中、シジュウカラ、ヒヨドリの声が盛んに聞こえた。シジュウカラは幼鳥の声も目立った。
7	強風の中での観察で、小鳥の出現が危ぶまれたが、シジュウカラの囀りも聞こえ、ハシトガラスやツバメの幼鳥に出会えた。
8	子育てが一段落したのか、気温が高いのを警戒してなのか、鳥の飛ぶ姿が少ない。久々にヤマガラが姿を見せてくれた。ヒヨドリの幼鳥が現れた。
9	久しぶりに、シジュウカラとエナガの混群に出会えたが、コゲラがいなかった。ミズキの実を食べていたコサメビタキに出会えた。渡り途中と思われ、ここでは初認です。
10	ヒヨドリの鳴声が盛んに聞こえる中、シジュウカラ、メジロ、コゲラの混群が数か所で観察できた。ガビチョウの鳴声も目立った。
11	ヒヨドリが全域で観察された。小鳥の混群との出会いは少なかった。藪の中からウグイス、ガビチョウの音が聞こえていた。ハクセキレイが久しぶりに観察された。
12	冬鳥であるシメ、シロハラを観察できた。30羽ほどのオナガの群れを観察した。メジロ、シジュウカラ、それぞれの群れを数回観察した。
1	ナラ枯れ病の樹木の伐採作業あり。林内が明るくなった。混群に出会えず鳥影少ない中、メジロが多かった。クマザサの中にいたウグイスが珍しく姿を見せてくれた。
2	ウグイスが囀りの練習を始めていた。シジュウカラも囀り始めていた。伐採作業で樹木に付いていた虫が地面に落ちたためか、シジュウカラ、メジロの群れが低い笹や地面に近くに多く見られた。
3	伐採作業が広範囲で行われていたがウグイスの囀りがはつきりとして、邪魔しないかと主張しているようだ。チョウゲンボウが上空を飛び去った。シロハラ、ツグミも姿を見せた。

注1: 表の最下段は月ごとの観察種数と年間の観察種数。

注2: 名称欄記号は、2010年度東京都レッドデータ、北多摩の категория 表示。

外来種

観察月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
カラハト					1		2		1	15	7	12	1
ガビチョウ		1	3	2	1			4	2	1			2
ソウシチョウ													
ホンセイインコ													

レッドリスト表示について

名称欄に東京都レッドリストのカテゴリー表示を行った。カテゴリー表示の条件を以下に示す。

2010年版 東京都レッドリスト

対象地域 北多摩の評価による

カテゴリー名称	表示	基本概念
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来における野生で絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類	EN	ⅠA類ほどではないが、ごく近い将来における野生で絶滅の危険性の高いもの
絶滅危惧Ⅱ類	VU	現在の状況をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」としての上位ランクに移行する要素を有するもの